

〔 特 集 〕

家で子どもを“みる” ～ホームケアのすゝめ，病気編～

子どもが風邪をひいたら小児科へ……と、子どもの健康上の異常があると思ったらいつでも小児科医に来ていただいて構いません……。でも、夜中2時……今から病院？とか、これくらいで病院行ってもいいのかな？とか、はたまた、けいれんして救急車が来るまでできることないの？などなど……小児科や病院に受診する前に、保護者が少しでも安心して子どもを診られるように本特集「家で子どもを“みる”～ホームケアのすゝめ，病気編～」を企画しました。

少子化で子どもが減っているなら、小児科にいつでも受診できるでしょ？と思われるかもしれませんが、感染症流行期には、どこの小児科クリニックもだいたい予約で一杯のため、簡単には受診できません。そんななかでも、子どもがよく遭遇する病気にまつわる症状や兆候に対するホームケアの具体的な方法を知っておくことは、保護者にとって、また小児医療にかかわるすべての人にとっても、一丁目一番地といえるほど重要なことでしょう。

さらに本特集では、医療的ケア児のホームケアについても専門家にまとめてもらっています。また、今回は“病気編”として、次回は2026年6月号に“けが編”として、さまざまなシーンでの「いえでの子どもの“み”かた」を特集します。楽しみにお待ちください！

(あいち小児保健医療総合センター総合診療部総合診療科／伊藤健太)

